

しんせう



第 114 号

2022 年 9 月
日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>



コロナ禍で通常の探鳥会も中止が続いていましたが、会員限定で実に3年ぶりの宿泊探鳥会を催行しました。コロナ対策としてバス車内はマスク着用、宿泊先は個室も格安で選択できるようにしました。

心配な天気も探鳥の際は雨に降られる事なく、高原の涼しい空気の中、鳥や植物を楽しみました。移動中の車内では参加者オススメの鳥の本や参加者撮影の鳥の写真を観覧したり、ゲームをしたり鳥のDVDを鑑賞したりと、寝る暇もなく鳥三昧。皆さん、笑顔の絶えない楽しい宿泊探鳥会でした。

目次

2022年6月 霧ヶ峰八島湿原と塩嶺小鳥の森	2
表紙のことば	2
霧ヶ峰探鳥会の感想	4
サンショウクイの営巣記録	5
理事会報告	5
ほのぼの鳥さん Watching	6
夏山 3題	8
ウスバシロチョウ舞うテーブルランド	9
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第29回 ミヤコドリ—	10
ツバメの見守りありがとう 伊賀・「道の駅いが」へ感謝状	15
会報の国会図書館納本について	15
野鳥記録	16
日本野鳥の会三重 2021年度総会 報告	18
探鳥会予告 (2022年10月～12月)	19
事務局だより	20
探鳥会報告 (2022年4月～2022年7月)	20
編集後記	24



表紙のことば

クサシギ

度会町 小坂 里香

クサシギは越冬していることも多いので、当地では渡り鳥というより冬鳥ですが、そう数も多くなく、ひっそりと孤独にたたずんでいるイメージで、なんとなく心惹かれるシギです。なにより絵に描こうと思ったときに背の模様がシンプルなのがいいです(笑)。

キアシシギに次いで地味なシギの代表といえます。よく似たタカブシギと比べると眉班がはっきりせず、アイリングが目立ちます。なんとなく全体がグリーンぽく、クサシギの名前の由来はわかりませんが草という漢字がぴったりな気がします。

1日目

霧ヶ峰八島湿原

松阪を 6.30 発で津駅→桑名駅、桑名東 IC から高速へ。途中諏訪湖で昼食。

八島湿原 (探鳥) 13:30 ~ 17:00

ノビタキがたくさん飛び回り、カッコウの囀りが響きます。のんびりチームとイケイケチームに別れそれぞれのペースでコースを回りました。カッコウを初めて見る人も数名いました。



すまし顔のノビタキ♂

てっぺん好きのカッコウ



2日目

車山高原ホテル周辺早朝探鳥

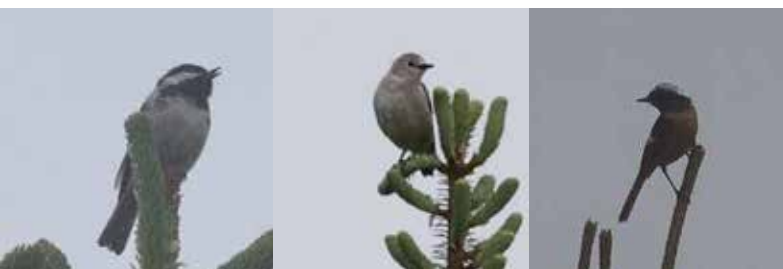
早朝探鳥会は 5 時集合。自由参加でしたが全員参加でした。天候は濃い霧に包まれ、さすが霧ヶ峰。白くかすむ中でもたくさんの鳥を観察することができました。

こんな高原にアオサギが? という驚きや、コムクドリの愛らしさに和む中、一番参加者を沸かせたのは、冬に身近に会えるジョウビタキの登場でした。

塩嶺小鳥の森自然公園

宿泊先を 8 時発、塩嶺小鳥の森へ向かいます。美しい森の中、さまざまな小鳥の声があちこちから聞こえます。しかし新緑の中、なかなか姿を見つけることができません。そんな中、道の脇に咲く花や草にとまる昆虫との出会いがありました。鳥だけでなく植物や昆虫の知識も豊富な方がいるのは素晴らしいことだと感じました。

途中駒ヶ根で昼食をとり、帰路につきました。無事松阪に 19 時着。皆さんのご協力のもと無事宿泊探鳥会を終えることができました。



囀りの大サービスのヒガラ♂

キュートなコムクドリ♀

注目の的のジョウビタキ♂



鳥の写真提供 中西 章さん

探鳥会としての記録

2022年6月10～11日

1日目：八島湿原 2日目：塩嶺小鳥の森

参加者：19名(会員19名)

探鳥会名：霧ヶ峰八島湿原

キジ カルガモ ホトトギス カッコウ アカゲラ モズ ハシブトガラス ヒガラ ヒバリ ウグイス ノビタキ イカル ホオアカ アオジ 計14種

探鳥会名：車山高原ホテル周辺

キジ アオバト アオサギ ホトトギス カッコウ

モズ アカゲラ アオゲラ カケス ハシブトガラス シジュウカラ ヒガラ ヒヨドリ ウグイス コムクドリ イカル ホオジロ ジョウヒタキ ゴジュウカラ キセキレイ カワラヒワ キビタキ 計22種

探鳥会名：塩嶺小鳥の森

ホトトギス トビ コゲラ サンショウクイ シジュウカラ サンコウチョウ カケス ハシボソガラス ヤマガラ ハシブトガラス コガラ ヒガラ ヒヨドリ ウグイス ヤブサメ エナガ メジロ センダイムシクイ キビタキ ホオジロ キバシリ 計21種

霧ヶ峰探鳥会の感想



伊勢市 小森 珠代

2022年6月10日より1泊2日で「霧ヶ峰八島湿原と塩嶺小鳥の森」への探鳥会へ参加致しました。昨年末に初めて探鳥会に出席したピカピカの1年生の私が参加しても良いのかな？迷いましたが行きたい一心で申込みました。

当日の八島湿原は晴れ曇りの丁度良いお天気の中、木道を進んで行くとモズやウグイス、イカル等・・・声はしますが姿は見つけれられません。望遠鏡を覗かせて頂くと茶色の胸が印象的なノビタキの姿が有りました。ここは標高1,640mの地点ですが池には カルガモが2羽。こんな高地にも生息してるなんて・・・愛おしく思えました。コースを進めて行くとカッコウの声が！高い木の上に姿も確認。その後もカッコウの囀りに包まれながら湿原を後にしました。

2日目は早朝よりホテルの周辺を散策し、ヒガラにコムクドリ、キビタキ、アオバト等・・・声



霧ヶ峰八島湿原の木道



クルミをほおぼる二ホンリス 撮影：中西章

は聞けましたが姿が確認できたのはジョウビタキでした。私は朝靄の中アカゲラのドラミングの響きがとても心に残りました。朝食後は塩嶺小鳥の森へ。緑が深まっていて囀りは聞こえても姿を見つけるのは難しかったのですが二ホンリスがクルミを美味しそうに頬張る所をゆっくりと見せてくれて感激しました。

最後になりましたがこの旅で皆さんの野鳥の知識の深さには感心しきりでした。また、それぞれの地で珍しい木々や花を目にしました。

「これは何かなあ？」と呟くと答えを返して下さる植物博士。昆虫博士もみえて今迄私には見えていなかった物、聞こえていなかった事を皆様からたくさん教えて頂きとても楽しい充実した時間を過ごせました。どうもありがとうございました。これからも学ばせて頂きたいのでどうぞよろしくお願い致します。

サンショウクイの営巣記録



志摩市 濱屋 勝則

志摩市磯部町上之郷にて

2022年5月22日から6月28日まで観察。

- 5月22日 伊雑宮駐車場にてサンショウクイ2羽が飛んでいるのを発見。駐車場にてクスノキの枝に1羽がとまっている。枝の股に作り始めたばかりの巣を発見。
- 5月24日 地衣類やクモの巣を運び巣作りに専念中。
- 5月25日 巣を出来上がったが今日はその巣に親鳥がやって来ない。
- 6月2日 メスが巣に座っているのを発見。
- 6月13日 抱卵も終盤。
- 6月16日 親が巣の上でもぞもぞと奇妙な動きをしている。
- 6月17日 雛確認。
- 6月22日 雛4羽を確認。
- 6月26日 給餌が見られた。
- 6月27日 もう1羽小さな雛を確認。
夕刻時に5羽が巣に居る。



サンショウクイの雛への給餌

- 6月28日 昨夕には5羽見られたが今朝はすべての雛の姿が無い。一夜の内に天敵に襲われた可能性が疑われる。巣立ちも近い内と思われたが残念な結果になった。

理事会報告



2022年6月26日(日) オンライン会議で実施

出席：11名 欠席：2名

【協議事項】

1. 経ヶ峰風力 準備書に意見を出した
論点 風車規模の増大、ヤイロチョウ、クマタカ、サシバが繁殖
2. ナベヅル 飛来準備
今年も飛来することを前提に、看板を立てることについて地元と話し合った
3. ホームページ改変 HP 管理体制
Free talk の運営 問題ないか？
4. 今後 ガンカモ調査、ツバメねぐら、サギのコロニーなどの情報収集を試みる
5. 木曾岬干拓地環境整備事業第二期のアセスメント
今年度で調査終了
6. 中部太平洋側でのチュウヒの繁殖の把握
チュウヒサミットの開催を検討
7. フクロウ巣箱問題 今年成功 2か所
さらに1か所は抱卵まで確認
巣箱利用 チェック体制など検討課題あり
8. 宿泊探鳥会 特に問題はなかった
20人前後で良かった
来年度はどの地区が実施するか
いままで、地区単位で担当してきたがどうするか
担当については後日検討する
9. 県営鈴鹿青少年の森問題
10. ガンカモ2023 新規参加者を募る
講習会(12月?)、識別マニュアル
11. 三重県レッドデータブック 鳥類のまとめ

【報告事項】

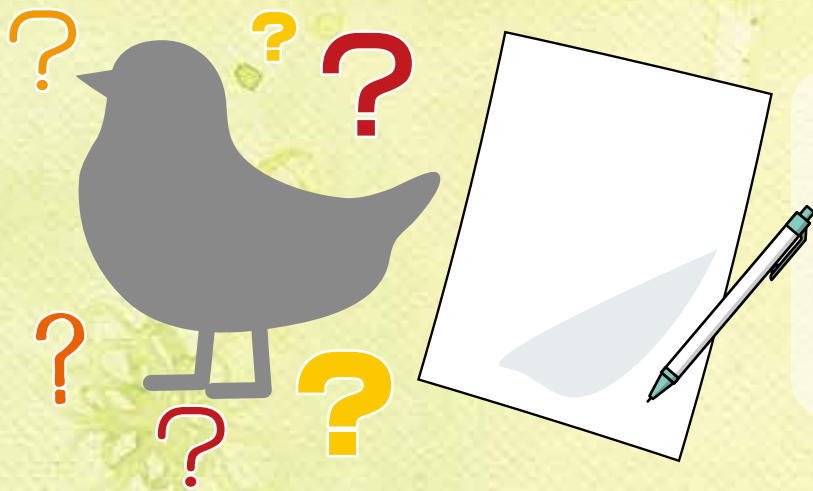
1. 三重県自然環境保全審議会
2. 違法飼育について報告
3. 鳥類目録 現在停止中 7月中旬に作業を再開

その他



2022年6月10,11日
長野県霧ヶ峰に宿泊探鳥会に行ってきました。
今回、旅行の世話役をさせていただきました。
行きのバスの中、レクリエーションとして
皆さんに『記憶スケッチ』をしていただきました。

『記憶スケッチ』とは!??
見本を見ずに、制限時間内に
出されたお題の絵を描きます。
己の記憶力と画力が試される
普段絵を描かない人にはハードなゲーム!??と
思われる方もいるかと思いますが
匿名なのでどの絵を誰が描いたかは分かりません。



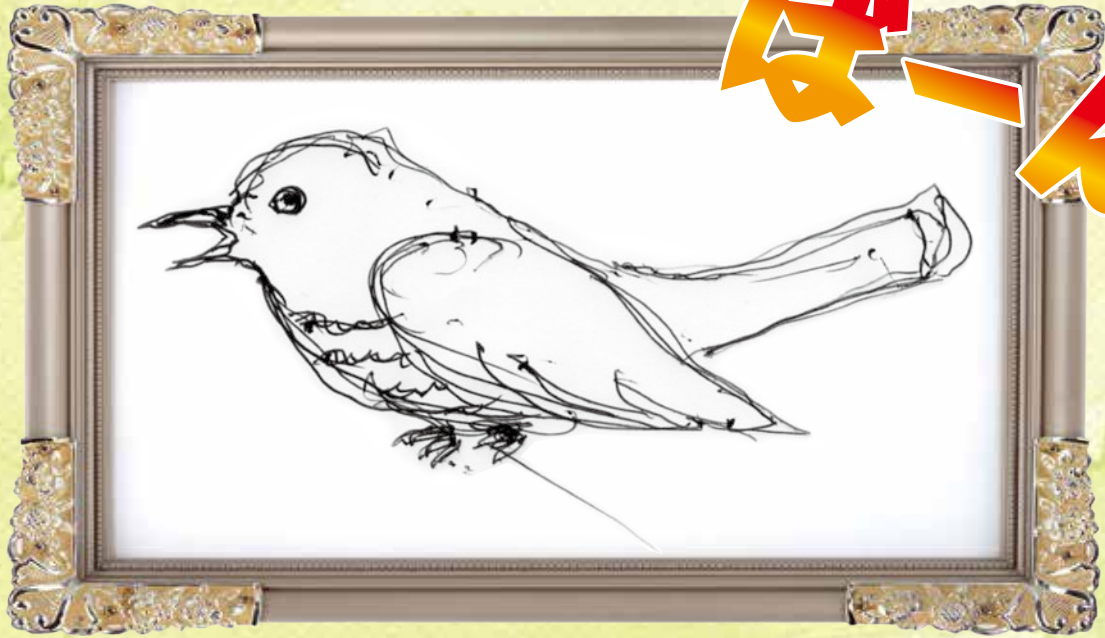
全員に紙が配られお題が伝えられます。
今回のお題はこれから行く
霧ヶ峰にいる『カッコウ』です。
1分30秒のお絵かきスタート!!
どちらかといえば画力より
観察力が重要???

さてさて、皆さん どんなカッコウが
描けたでしょうか!?
袋を回して作品を回収～。

まとめて綴じて観覧していただき
気に入ったカッコウにお一人2枚
シールを貼っていただきました。
自分の作品に貼ってもOKです。



一番人気はこのカッコウ!!!



ばんん!!!

次は同票でこの3羽!!!

どやっ



全員のカッコウを載せたいのですが
スペースの都合上 私の独断と偏見で選出した
カッコウを掲載させていただきます。
皆さん ステキなカッコウ
ありがとうございました。

独創的!

目力!!



かわい〜♥

感動!

素晴らしい!!



輝く青葉の中、砂山遊歩道ハイク

2022年5月7日（土曜日）曇りのち晴れ

- 7:45 宇賀溪観光案内所前より砂山遊歩道を進む。
- 9:35 砂山山頂
- 10:20 登りと同じルートを下山
- 11:40 観光案内所に到着

【見られた野鳥】

キジ、アオバト、アカショウビン、コゲラ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、イカル、ホオジロ、ヒヨドリ 17種類

【見られた植物】

イワカガミ、ツツジ、キランソウ、ベニドウダン 4種

今回は登山と言うよりはハイキング的なコース。新緑に包まれた遊歩道を進み、途中では届いたばかりの夏鳥を含め、多くの鳥達の存在を確認できました。

【鳴き声や姿を見られた野鳥】

ジュウイチ、トビ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、エナガ、ミソサザイ、クロツグミ、コルリ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ 計18種

【見られた植物】

イワカガミ、タニウツギ、シャクナゲ、フタリスズカ、ベニドウダン 5種

今回は鈴鹿山脈の縦走路の中にある三池岳(974m)に登って来ました。中峠、八風峠を経由してからの県境稜線に出て眼下の眺望を楽しみ、そこから仙香山(標高982.1m)と北仙香山(985m)の2座のピークに寄り、三池岳山頂に到着です。目の前に竜ヶ岳、釈迦ヶ岳と鈴鹿の山を代表する山々も、薄い緑や濃い緑で包まれとても綺麗でした。野鳥達の囀りが心地良いBGMで何度も足を止め声のする向きを確かめ採鳥することもできました。

三池岳

2022年6月4日（土曜日）晴れ

- 7:38 八風キャンプ場奥の駐車場をスタート
- 7:43 三池岳登山口、 9:45 中峠
- 9:59 仙香山、 10:25 北仙香山
- 10:57 八風峠、 11:16 三池岳
- 13:57 三池岳登山口
- 14:05 八風キャンプ場奥の駐車場にゴール



三峰山 夏

2022年6月25日（土曜日）晴れ

- 三重、奈良県境 三峰山
- 8:22 奈良県御杖村みつえ青少年村入口
登山者専用駐車場からスタート
- 8:40 三峰山登山口 登尾ルートから入山
- 10:20 三畝峠、10:55 三峰山
- 11:24 八丁平、12:50 三畝峠
- 13:37 三峰山登山口 登尾ルート口に帰着



【鳴き声や姿を見られた野鳥】

ホトトギス、トビ、コゲラ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、キバシリ、ミソサザイ、クロツグミ、オオルリ、ホオジロ、ソウシチョウ 16種

【見られた植物】

ホタルブクロ、イナモリソウ、タツナミソウ、サラシナショウマ、ガマズミ、コアジサイ 6種

今回は登山道に咲くコアジサイが見頃を迎えている頃だろうか三峰山に行って来ました。今年は早くも花が終わってしまっている状態を目にし

てビックリ！ 何とかまだところどころでは可愛く咲いてもいたので、目的が果たせて嬉しく思いました。

林道ではミソサザイやキバシリの声が聞こえるのだけど姿が見えず。山頂近くのシロヤシオの葉の茂みではエナガやヤマガラが採餌中なのか、忙し無く飛び渡ってました。立ち止まりその様子をうかがっていたようにも、アブが周囲を飛んでいるので気にしないわけにはいかずでした。夏の山は害虫への注意も必要なので、心得が大事だと思います。無事に山頂に到着した後で八丁平に下りゆっくり休憩したのち来たルートを戻り下山としました。

ウスバシロチョウ舞うテーブルランド



四日市市 辻秀之

2022年6月5日(日)曇り

滋賀県東近江市御池岳

6:50 鞍掛峠駐車場発、7:15-7:25 鈴北岳、

8:55 御池岳、9:55-10:20 ボタンブチ、

10:20-12:55 御池岳、14:25 鞍掛峠、

14:40 鞍掛峠駐車場着

※北方起源のアゲハチョウ科のチョウで、北海道、本州、四国に分布し、年1化性で5月頃発生する。御池岳や伊吹山はウスバシロチョウの産地で、山頂付近の発生時期は他の産地に比べて遅い6月である。

氷河時代の生き残りと言われるウスバシロチョウ※に会いに、御池岳周辺のカルスト地形＝テーブルランドを歩いてきました。ちょうど発生のピークを迎える時期で、ステンドグラスのような美しい翅を堪能しました。

道中、ツツドリ、ジュウイチ、オオルリ、キビタキ、ミソサザイなどの囀り、テーブルランドに上がってからは、終始カッコウの声をお供に歩きました。



カマツカの花で吸蜜するウスバシロチョウ

【観察した野鳥】

キジバト (S)、ジュウイチ (S・V)、カッコウ (S・V)、ツツドリ (S)、トビ (V)、コゲラ (C)、アカゲラ (C)、ヤマガラ (S・V)、ヒガラ (S・V)、シジュウカラ (S・V)、イワツバメ (F)、ヒヨドリ (V)、ウグイス (S)、エナガ (C・V)、メジロ (S)、ミソサザイ (S)、キビタキ (S)、オオルリ (S)、イカル (S)、ホオジロ (S・V) 計20種 他にカラス sp. (V)

注:F: 飛翔、S: 囀り、C: 地鳴き、V: 視認



テーブルランド東側の奥ノ平と呼ばれるあたり

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第 29 回 ミヤコドリ—



津市 今井 光昌

日本野鳥の会三重が実地している伊勢湾西岸でのミヤコドリの生息数調査では、2020年12月21日に157羽が記録され、2021年12月9日の調査でこれまでの最大数161羽が記録されました。2022年2月24日の調査では151羽と、冬季の越冬数が2020年以降3年連続して150羽を超えました。越冬数の増加に伴い、行動範囲も広がり、北は高松海岸から南は榑田川河口まで、砂質の干潟や海岸で2枚貝を主食に生活しています。

ミヤコドリは冬鳥として9月から10月に繁殖地から日本に渡ってきます。また、毎年10-20数羽の若鳥が伊勢湾西岸で越夏してもあります。津市の安濃川河口と雲出川河口でカラーフラッグを装着したミヤコドリ2個体が観察されました。

その標識により2019年7月にカムチャツカ半島で放鳥された雛と言うことが分かり、カムチャツカ半島が津市に渡来したミヤコドリの繁殖地と判明しました。

ミヤコドリはハトよりやや大きくて、赤く長い嘴とピンクの色足が目立つ為、他の鳥との見分けが容易です。また、頭部から上面にかけては黒く、腹から下尾筒は白いです。幼鳥は上面が褐色がかかり嘴の先端部に黒味があり足は鈍い肉色です。虹彩は幼鳥時には暗色で、成長するにつれ鮮やかな赤色になります。成鳥も幼鳥も飛行時には翼に広い白帯が出ます。ミヤコドリは採餌や休息などは他種と一緒にこなすものの、他種と群れを組んで移動することはまずありません(図1-2)。



図1 雲出川河口干潟で休息するミヤコドリの群れ 2021.10.21



図2 潮が満ちて干潟がなくなり、休息場の松阪港の防波堤に移動するミヤコドリの群れ 2020.11.21



図3 ミヤコドリ 成鳥と幼鳥 2015.10.06

図3は左が成鳥で右が幼鳥です。幼鳥は上面が褐色味を帯び各羽に細い淡色の羽縁があります。成鳥の嘴は先端まで赤く、足もピンク味が強



図4 ミヤコドリ 幼鳥 2012.10.16

いですが、幼鳥は嘴が橙色で先端が黒く足は鈍い肉色です。成鳥の眼は赤く輝きがありますが、幼鳥の眼は暗色で赤い輝きがありません（図3-4）。

ミヤコドリ 第1回冬羽に換羽中—第1回冬羽



図5 ミヤコドリ 第1回冬羽に換羽中 2012.11.21



図6 ミヤコドリ 第1回冬羽に換羽中 2012.12.26



図7 ミヤコドリ 第1回冬羽 2012.11.21

ミヤコドリ幼鳥の虹彩は暗赤褐色で幅が狭く、その分、瞳孔が大きいです。体上面は褐色で、フレッシュな幼羽は淡色の細い羽縁がありますが、羽縁は擦れで消失します。図5の個体は背・肩羽に黒色の冬羽が出始めています。図6の個体は図5よりも第1回冬羽への換羽が進み、背・肩羽の冬羽が増えています。更に第1回冬羽への換羽が進むと図7のような羽衣になります。



図8 ミヤコドリ 幼鳥と第1回冬羽 2014.10.30

図8の後方の個体は褐色味が強いいかにも幼鳥らしく見えます。手前の個体は黒味が強いですが、眼が暗色、嘴先端が黒い、濁肉色の足などから幼鳥と判断でき、第1回冬羽に換羽中で、雨覆にも黒色の冬羽が出ています。2個体の羽色差が第1回冬羽への進行差なのか、雌雄差なのか不明ですが、黒味が強い手前は♂だと思います。図鑑ではミヤコドリは雌雄同色となっています。



図9 ミヤコドリ 第1回夏羽 (左) と第2回夏羽 (右) 2013.05.22

ミヤコドリの第1回冬羽は部分換羽で肩羽や雨覆に幼羽が残りますが、第1回夏羽も部分換羽です。新しい夏羽と冬羽、幼羽の3世代の羽が混在します。第2回冬羽は冬羽に全換羽しますが、



図10 ミヤコドリ 第1回夏羽 2021.05.06

第2回夏羽は部分換羽なので新しい夏羽と旧羽の冬羽が混在します。第1回夏羽と第2回夏羽の違いは嘴や虹彩、足色の差もありますが、幼羽が残っているかどうかになります (図9-10)。

白い首輪のあるミヤコドリ



図11 第1回夏羽と第2回夏羽 2010.07.18

図11は白い首輪のある第1回夏羽(手前)と第2回夏羽(後方)です。ミヤコドリは4亜種に分かれます。日本にはカムチャツカ半島、中国東部で繁殖する亜種が渡来しているようですが普通は白い首輪はありません。ヨーロッパ種は白い首輪があるそうですがヨーロッパ種とは嘴の長さなどの特徴が違います。これまでの観察では白い首輪のある成鳥は1個体も見られず1-2年目の若鳥ばかりでした。

白い首輪が出るのは1年目、2年目の若鳥で、冬羽や換羽中の個体に出る時があるのだと思っていましたが、第1回夏羽、第2回夏羽にも見ら

れたことから、若鳥は冬羽、夏羽にかかわらず白い首輪が出ることがあります(図12-14)。



図12 第2回冬羽
2018.09.08



図13 第2回冬羽に換羽中
2010.09.07



図14 第1回冬羽に換羽中
2009.11.07

第2回冬羽、第2回夏羽、成鳥冬羽、成鳥夏羽

ミヤコドリの第2回冬羽以降の年齢を羽色や形状だけで読み取るのは難しいので、眼や嘴や足色などを判断材料にして年齢を推測しています。

嘴の先端に黒味が残るのは第3回冬羽迄で、成鳥の特徴を全て持つのは第3回夏羽からと判断しています(図15-18)。



図15 ミヤコドリ 第2回冬羽 2014.01.01



図16 ミヤコドリ 第2回夏羽 2011.05.22



図17 ミヤコドリ 成鳥冬羽 2012.02.11



図18 ミヤコドリ 成鳥夏羽 2011.05.22

成鳥は嘴が先端まで赤くなり（黄色味のあるものもある）、虹彩は赤く幅が広くて輝きがあります。足色は若鳥の肉色からピンク味のある明るい色になります。なお、ミヤコドリのように成鳥に

なるのに数年かかると言われる鳥の場合、成鳥とは繁殖年齢に達したか否かではなく、体の各部位が成熟した成鳥と変わらなくなった年齢を指すと解釈しています。

ミヤコドリ成鳥雌雄



図 19 ミヤコドリ 成鳥雌雄 2015.10.25

図 19、図 20 の 2 個体は雌雄とします。図 19 の手前の個体は後方の個体に比べ上面が褐色味を帯び光沢もないことで♀。後方の個体は上面の黒味が強く光沢があることで♂とします。



図 20 成鳥雌雄（図 19 と同じ 2 個体）

図 20 と図 19 は同じ 2 個体ですが、ミヤコドリの♂と♀は虹彩の大きさ、形に違いがあるようです。♂と思われる個体は眼が大きく輝いています。



図 21 ミヤコドリ 2015.10.25

成鳥夏羽と第 1 回夏羽

年齢に関係なくミヤコドリの翼下面は大部分が白く、翼上面には太い白帯があります。腰、上尾筒、尾の基部は白く尾の先端は黒いです。図 21 の左は成鳥冬羽で右は第 1 回冬羽に換羽中です。ミヤコドリは白と黒の羽が交り混ざって一枚一枚の羽を鮮明に撮るのが難しく、そのことが羽模様からの年齢判断を難しくしています。

最後に

図 22 はカムチャツカ半島から渡来した T7 のカラーフラッグを装着したミヤコドリ（第 2 回冬羽）で、図 23 は嘴の黄色いミヤコドリ（第 2 回冬羽）です。注意深く観察していると稀な出会いがあります。それが野外観察のメリットです。



図 22 標識付きミヤコドリ
2020.11.14



図 23 黄色い嘴のミヤコドリ
2008.11.25

ツバメの見守りありがとう 伊賀・「道の駅いが」へ感謝状



事務局 西村 泉

2022年6月28日(火)、「株式会社安全 道の駅いが」に対し、公益財団法人日本野鳥の会(東京)よりツバメの子育て見守り感謝状を贈呈しました。



「道の駅いが」のツバメ

たまたま会のメンバーと名阪国道沿いにある「道の駅いが」を訪れた際、施設の軒先に多くのツバメの巣を見つけ、施設側と交渉を重ねた結果、このほど無事に感謝状の贈呈を終えましたので報告します。今年度の「ツバメの子育て応援事業」は、昨年度の松阪市「道の駅 飯高」に続き2例目となります。

同施設は2005年に創業、北川英典さんは、店長に就任されて10年近くなるそうですが、そのころよりツバメの巣が作られ、ツバメの子育てを見守ってこられました。この日、ツバメの子育てもピークを過ぎた様子でしたが、それでもまだ親鳥が卵を抱いていたり、卵から孵ったばかりのヒナがいる巣など4~5巣ありました。



贈呈式の様子

報道関係者は、ケーブルテレビを含め全6社。今回表彰に至った経緯や、ツバメの子育てを取り巻く環境などについて熱心に取材され、また頻繁にエサを運ぶ親鳥や大きく口を開けエサをねだるヒナを撮影していました。なかには「野鳥の会は『野鳥の巣には近づかないように』と言っている人がいますがどうなのでしょう?」と心配そうに尋ねる記者の方がいました。連携団体である日本野鳥の会三重の平井正志代表は、「ツバメは特別。巣の近くに人がいることで、ツバメの天敵であるカラスやヘビからヒナが守られている。逆に人がいない店はツバメもいなくなる」と説明しました。

平井代表から感謝状・記念品(ツバメのステッカー)を手渡された北川店長は、「ツバメのステッカーは店舗内に貼ります。今後もツバメとの共存を図っていきたい」と話されました。

会報の国会図書館納本について

本会の会報として1993年5月より発刊してまいりました「しろちどり」を三重県立図書館には創刊号から納本してまいりましたが、今回、国立国会図書館へ全てを納本いたしました。

国立国会図書館は日本の国会議員の調査研究、行政、ならびに日本国民のために奉仕する図書館であり、また、納本制度に基づいて、日本国内で出版されたすべての出版物を収集・保存する日本唯一の法定納本図書館であります。

納本によって知りえたことですが、出版者は新たに刊行しようとする出版物のうちの最良の版数部を、これに納本する義務を課せられるとのことでした。

国立図書館はこの制度を通じて、出版物の収集や、永久的保存をはかり、それによって日本のすべての出版物に対する国民のアクセスを保障し、あらゆる出版物の散逸を防止し、国の中央図書館、ライブラリーとしての役割を果たすことができるとされており、本会もこの義務を果たすことができ、全国の方々に「しろちどり」の存在を周知できることとなりました。納本にあたり、国会図書館事務局へ連絡を入れますと、担当司書は本会の「しろちどり」の存在をご存じで、我々が探鳥会でいろいろな鳥を探すように、司書も日々新しい出版物の調査研究を実施しているとのことでした。

(理事 伊藤 通数)

野鳥記録 (2022年5月2日から2022年7月31日までに報告があったもの)



鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄/雌/ などの区別	記録報告者 氏名	脚注
ハジロコチドリ	1	2017/01/14	明和町 大淀海岸	成鳥	今井 光昌	1
ハジロコチドリ	1	2017/04/24	松阪市 金剛川	成鳥	今井 光昌	2
ハジロコチドリ	1	2017/04/25	松阪市 松名瀬海岸	成鳥	今井 光昌	3
ハジロコチドリ	1	2017/08/03	松阪市 松名瀬海岸	成鳥	今井 光昌	4
オジロトウネン	2	2017/08/28	伊勢市	幼鳥	今井 光昌	5
オジロトウネン	1	2017/09/04	津市	成鳥	今井 光昌	6
オジロトウネン	1	2018/03/23	松阪市	成鳥	今井 光昌	7
ハジロコチドリ	1	2018/11/01	明和町 大淀海岸	成鳥	今井 光昌	8
ハジロコチドリ	1	2019/01/01	明和町 大淀海岸	成鳥	今井 光昌	9
オジロトウネン	1	2020/03/18	松阪市	成鳥	今井 光昌	10
キビタキ	1	2022/04/26	松阪市	雄	小野 新子	11
チュウビ	1	2022/05/04	四日市市 鈴鹿川派川		今西 純一	12
フクロウ	1	2022/05/08	松阪市	幼鳥	西村 四郎	13
サンコウチョウ	2	2022/05/15	四日市市 垂坂公園		今西 純一	14
シロチドリ	2	2022/05/20	津市	巣立ちヒナ	平井 正志	15
メボソムシクイ	1	2022/05/22	四日市市 垂坂公園		今西 純一	16
オオアカゲラ	1	2022/05/27	四日市市 宮妻峽		笹間 俊秋	17
アカショウビン	3	2022/05/30	鈴鹿山脈		笹間 俊秋	18
ノスリ	1	2022/06/01	鈴鹿市 入道ヶ岳林道		笹間 俊秋	19
アカアシチョウゲンボウ	1	2022/06/08	伊勢市		中西 章	20
アカガシラサギ	1	2022/06/10	志摩市		濱屋 勝則	21
ミヤコドリ	17	2022/06/12	四日市市 高松海岸		谷口 幸生	22
カッコウ	1	2022/06/13	鈴鹿市 入道ヶ岳林道		笹間 俊秋	23
ヨシゴイ	1	2022/06/18	松阪市		濱屋 勝則	24
トラツグミ	1	2022/06/20	鈴鹿市 入道ヶ岳林道		笹間 俊秋	25

脚注

- 1-10. 古い記録であるが、重要な記録なので、ここに掲載する（編集部）。
11. 庭の新緑の中で黄色が目立つ鳥が目に入った。
12. 頭上をしばらく旋回した後、北に飛び去った。
13. 今年も巣箱を利用した。中村洋子さんが確認。5/8 と 5/10 にも確認。
14. 垂坂公園では 2017/5/5 以来、5 年ぶり。
15. 孵化 1 週間以内と思われる。2 羽が一緒に行動していた。
16. 囀っていたのは 2 分ほど。
17. 赤いキツツキの写真を撮るとオオアカゲラでした。
18. 近くで囀りが聞こえてきた。姿は見えぬ。スマホで録画して囀りを記録。
19. 繁殖ではなさそう。
20. 珍しい種とは思わず、普通のハヤブサと思い込んでいました。
21. 2 日間同じポイントにて滞在。写真を撮影できた。
22. 冬鳥のはずが、渡りの途中か、それとも居残り組かな？
23. 山の木の上で鳴いていた。
24. この時は 1 羽しか見なかったが、他にもヨシの中に居るかも？
25. 聞きなれない囀り。調べるとトラツグミでした。



チュウビ：今西 純一



フクロウ：西村 四郎



オオアカゲラ：笹間 俊秋



アカアシチョウゲンボウ：中西 章



アカガシラサギ：濱屋 勝則



ヨシゴイ：濱屋 勝則



キビタキ：小野 新子



ミヤコドリ：谷口 幸生



今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、2022年度の総会開催を断念いたしました。残念でしたが、会員の皆様へ総会文書等をお送りし、書面議決とさせていただきます。議決の結果は、以下の通りです。

投票総数（返信されたハガキの枚数）121

2021年度	活動報告	賛成 121	反対 0
2021年度	決算報告	賛成 121	反対 0
2022年度	活動計画	賛成 120	反対 1
2022年度	予算案	賛成 120	反対 1

以上、議決はすべて可決されました。なお、反対の理由は記載されていませんでした。

会員からの声（意見・質問）

- いつもありがとうございます。（4名）
- 「ほのぼの鳥さんウォッチング」楽しみに見させていただいております。
- 高齢になりましたので探鳥会には参加できませんが、「しろどり」は楽しんで読んでいます。
- 栃木のサシバたちも営巣中ようです。秋に元気に三重の空を通過してくれると思います。
- 足見川の定例探鳥会は、「守る会」のメンバーと共に楽しみたいと思います。
- 前のように、鳥を見に行けることを祈っています。
- 毎日、汁谷川沿いや離宮院公園を散歩しながら、季節の鳥たちに出会うのを楽しんでいます。
- 今年度は、探鳥会できると良いですね。
- コロナ感染への対応が硬直化している。ウイルスの変異・特性に対応したウィズコロナを考えるべきだと思います。屋外行事の探鳥会を「会員限定」とは？ 何の意味があるのか理解に苦しむ。とりあえず、6月は解除されたようなのでホッとしています。（知らずにきた非会員を断った例はあるかどうかは知りませんが）
- 各鳥見会（各探鳥会の開催）の有無が、コロナ禍であってもやるのか？ やらないのか？ が判らないので、何らかの連絡が都度欲しいです。

【コロナ禍における探鳥会の開催について】

新型コロナウイルス感染が拡大して2年半が経過しました。これまで当会では、感染状況や国・県の感染対策、（公財）日本野鳥の会の指針をふまえて、探鳥会開催の可否を検討してきました。

探鳥会は野外活動とはいえ、「マスクを着用する、人と人との間隔を保つ」など配慮事項を守ったとしても絶対に安全とは言いきれません。また人が集まることで世間から会への非難も考えられます。万が一、探鳥会リーダー・参加者が感染しても会の保険では病気治療については対象外です。さらに探鳥会では参加者が感染した場合、会やリーダーが責任を問われるおそれがあることも全く否定できません。このように様々なリスクを考慮しながら、今回、段階的に「会員限定」で探鳥会を再開しました。今後も参加者・リーダーの安全・安心を第一に、探鳥会開催の可否について検討してまいります。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【探鳥会開催の連絡について】

新型コロナウイルス感染状況により探鳥会の開催がまちまちで、会員の皆様にはご不便をおかけしております。

探鳥会開催の可否については、当会の公式ホームページまたは公式ツイッターでご案内しています。なお、グループLAIN「フリートーク」での探鳥会開催の連絡は、現時点では考えておりません。

（事務局 西村泉）



サシバ

探鳥会予告 (2022年10月～12月)



- 9月25日(日) みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
開催地/奈良県宇陀郡御杖村菅野 みつえ高原牧場
集合/ 8:00 近鉄名張駅 西口前
解散/ 12:00 現地
備考/参加予約必要 田中豊成
- 10月1日(土) 高見タカ渡り探鳥会
開催地/松阪市飯高町木樨 高見峠手前
集合/ 8:30 道の駅「飯高駅」
解散/ 11:30 現地
- 10月1日(土)・2日(日)
やすらぎ公園タカ渡り探鳥会
開催地/伊勢市 やすらぎ公園
集合/ 7:30 やすらぎ公園 納骨堂前
解散/ 10:30 集合地
- 10月8日(土) 海蔵川で鳥見 ing!
(バードウォッチング) その4 小雨決行!
開催地/四日市市西坂部町 海蔵川沿い
集合/ 9:45 海蔵川代官橋 北詰
解散/ 12:00 集合地
- 10月16日(日) 市木川河口及び水田探鳥会
(雨天の場合は10月22日土に順延)
開催地/南牟婁郡御浜町市木 市木川河口
集合/ 9:00 道の駅「パーク七里御浜」
解散/ 12:00 市木川河口
共催/御浜町、環境省近畿地方環境事務所、熊野自然保護官事務所
- 10月23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
集合/ 9:00 愛知県 弥富野鳥園
解散/ 12:00 集合地
- 10月29日(土) 香良洲海岸探鳥会
開催地/津市香良洲町 香良洲海岸
集合/ 10:00 香良洲公園駐車場
解散/ 12:00 集合地
- 11月13日(日) 中村川探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市嬉野一志町 中村川中流域
集合/ 9:30 ファミリーマート嬉野中川店
(旧サークルK) 前の 駐車場
解散/ 11:30 現地
- 11月20日(日) 安濃川河口探鳥会 小雨決行!
開催地/津市高洲町 安濃川河口
集合/ 13:00 安濃川河口 右岸の先端 東屋
解散/ 14:30 現地
- 11月23日(水・祝) 海蔵川で鳥見 ing!
(バードウォッチング) その5 小雨決行!
内容は、10月8日と同じです。

- 11月26日(土) 三滝川かんさつ会 小雨決行!
開催地/三重郡菟野町 三滝川河川敷
集合/ 9:30 大羽根グランド駐車場
解散/ 12:00 頃 集合地
- 11月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、10月23日と同じです
- 12月3日(土) 身近な冬鳥を観察しよう
(ため池のカモ類) 雨天・強風は中止
開催地/津市一身田上津部田 三重県総合博物館周辺のため池
集合/ 9:30 三重県総合博物館
2階エントランスホール
解散/ 11:15 集合地
共催/三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター
備考/参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283
- 12月4日(日) ベルフーム探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市伊勢寺町 松阪農業公園ベルフーム
集合/ 9:30 ベルフーム 匠の館前
解散/ 11:30 集合地
- 12月11日(日) 員弁川探鳥会
開催地/いなべ市員弁町 員弁川周辺
集合/ 9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場
解散/ 12:00 集合地
- 12月11日(日) 磯部川水系探鳥会
開催地/志摩市磯部町穴川 穴川～磯部
集合/ 9:30 志摩市磯部町穴川駅駐車場
解散/ 11:30 集合地
- 12月18日(日) 横山池・安濃ダム探鳥会 小雨決行!
開催地/津市芸濃町 横山池・安濃ダム
集合/ 10:00 津市芸濃文化センター駐車場
解散/ 12:00 安濃ダム
- 12月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、10月23日と同じです。



スズメ

事務局だより

活動の記録（2022年4月～7月）

- 4/15 ナベヅル越冬 / 今年度の対応について地元と話し合いを行った
- 4/21 施設改修（ツバメ営巣）の件で大台町役場へ
- 4/ 2022年度総会文書の作成
- 5/19 (仮称)平木阿波ウインドファーム事業及び(仮称)平木阿波第二ウインドファーム事業計画について説明会へ出席(代表)
- 5/20 国交省宮川出張所へ野鳥紹介看板リニューアルの提案(南勢地区)
- 5/27 会報誌「しろちどり第113号」発行・発送作業
- 6/17 (仮称)平木阿波ウインドファーム事業及び(仮称)平木阿波第二ウインドファーム事業環境影響評価準備書に対する意見書を送付
- 6/22 施設改修（ツバメ営巣）の件で大台町役場へ
- 6/26 理事会開催（オンライン会議）
- 6/28 本部の「ツバメの子育て応援事業」に参加
「株式会社安全・道の駅いが」へツバメの見守り感謝状を贈呈(代表/事務局/伊賀地区)
- 7/20 看板設置のため現地視察(県伊勢農林水産事務所/南勢地区)

探鳥会報告（2022年4月～2022年7月）



●蓮ダム周辺探鳥会

2022年4月3日(日)

西村四郎

雨で中止となりました。
一応集まったメンバー6人で展望台に登り、大まかな風力発電の位置などイメージしました。
津本公園の桜が満開で、ダム湖周辺ではヤマセミが現れ、嬉しいこともありました。

●海蔵川で鳥見ing!(バードウォッチング)その1

2022年4月16日(土)9:45～11:30

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者6名(会員6名)

カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計16種

約半年ぶり開催となり、前日からの雨は上がったのですが、強風の吹き上げる中での開催になってしまいました。この風の中ですが川面からまだ居残っているコガモ夫婦とキンクロハジロが出迎えてく

れました。左岸の河畔林の中からウグイスの囀りが綺麗に聞こえ、上空から川面スレスレにツバメが飛び交い、その横をコバルトブルーのカワセミが一直線に上流へ向けて矢のごとき飛んで行きました。耳を澄ますとウグイスの声のほか、上空からヒバリの囀りも聞こえてきます。また枝の上から胸を張ってホオジロがきれいな声で囀っていました。海蔵川も桜が散って居残りカモたちが北へ旅立つと、いよいよ春本番から新緑の季節へと移り変わろうとしています。

●五主探鳥会

2022年4月16日(土)9:00～10:30

松阪市 五主海岸・大池

西村四郎 小野新子 参加者14名(会員14名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ダイゼン、シロチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、チュウシャクシギ、ツ

ルシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ 計 36 種

凄く風の強い日で残念でした。雲出川河口にはすぐ近くにはダイゼン幼羽、遠くにミヤコドリ約 100 羽くらいいました。全体に鳥は少なく、強風の影響もあって 40 分程で移動しました。途中、五主池に停まったのですが、強風で望遠鏡が飛ばされそうですぐ退散しました。最終の大池には、ツルシギ、アカアシシギ、セイタカシギ、アオアシシギなど来ていました。ツルシギは春の使者で嬉しくなります。36 種確認できたので満足でした。

●五十鈴川上報流探鳥会

2022 年 4 月 16 日 (土) 6:30 ~ 8:00

伊勢市宇治今在家町 五十鈴川上流

杉原 豊 中西 章 参加者 11 名 (会員 11 名)

カワウ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ヒレンジャク、シロハラ、ツグミ、イソヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ、ドバト 計 30 種

北風が吹く肌寒い晴天の中、宇治橋前より新緑の五十鈴川に沿いを 1 km 程度逆上り観察した。キビタキ、オオルリ等の夏鳥の鳴声を聞くことができ、またリュウキュウサンショウクイは至近距離 (肉眼でもよくわかる距離) で観察することができた。

コロナのため会員のみによる観察となったが、30 種を観察した。

●木曾岬干拓地探鳥会

2022 年 4 月 24 日 (日) 9:00 ~ 11:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者 8 名 (会員 8 名)

キジ (2)、マガモ (4)、カルガモ (10)、コガモ (10)、カイツブリ (2)、キジバト (15)、カワウ (25)、アオサギ (3)、ダイサギ (5)、オオバン (1)、ケリ (16)、コチドリ (6)、セイタカシギ (1)、コシヤクシギ (1)、チュウシャクシギ (14)、クサシギ (1)、カワセミ (1)、ハシボソガラス (2)、ハシブトガラス (20)、シジュウカラ (3)、ヒバリ (10)、ツバメ (7)、ヒヨドリ (4)、ウグイス (5)、セッカ (30)、ムクドリ (10)、スズメ (30)、ハクセキレイ (1)、ドバト (5) 計 29 種

久しぶりの探鳥会でしたが、あいにくの雨で猛禽類を全く観察できませんでした。

ただ、コシヤクシギを観察できました。

●瀬戸林道探鳥会

2022 年 4 月 29 日 (金・祝) 9:30 ~ 11:10

津市美里町桂畑 瀬戸林道

奥山正次 落合 修 参加者 5 名 (会員 5 名)

アオサギ、トビ、アオゲラ、ハシボソガラス、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ミソサザイ、カワガラス、キビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ソウシチョウ 計 20 種

今にも降り出してきそうな天候の中で探鳥会を始めました。まず、庁舎内のコシアカツバメの巣を確認に行きました。巣の下に近づくと、いきなり 2 羽が巣から飛び出し、もう一つの巣からは 1 羽が飛び出して行きました。ずいぶん警戒心が強いようです。去年の巣は、半分壊されてスズメが使っていました。次に、イワツバメが営巣している橋に移動して観察しましたが、出入りがあまり頻繁ではないので、まだ抱卵中の巣が多いのでしょうか？

瀬戸林道では、傘を差して歩き始めてすぐに、鳴き声の後アオゲラが飛び去って行きました。橋を過ぎてカワガラスに追い越されたところで引き返し、終了としました。

●上野森林公園探鳥会

2022 年 5 月 8 日 (日) 8:45 ~ 11:00

伊賀市下友生松ヶ谷 1 三重県上野森林公園

前澤昭彦 南 一朗 参加者 8 名 (会員 8 名)

トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、ホオジロ、コジュケイ 計 16 種

観察した鳥の種類は少なかったですが、コサメビタキをじっくりと観察できました。

去年は営巣場所を特定できましたので、今年も必死で巣探しをしましたが、かないませんでした。コサメビタキの繁殖は定着しているようでした。

●金剛川河口探鳥会

2022年5月10日(火) 9:30～11:00

松阪市高須町 金剛川河口

中村洋子 小野新子 参加者11名(会員11名)

キジ、マガモ、ホシハジロ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、キアシシギ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計29種

サッカー場にケリが複数いたので営巣しているかと思ったが分からなかった。そこにはチュウシャクシギもいた。その後河口へ移動。ホウロクシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギのみ。あまりいないので早めに終わりました。終わってから、私は友と阪内川、百々川、三渡川河口の堤防を走った。阪内川河口ではミヤコドリ、百々川河口の堤防下の石積みの上にはハマシギ、キアシシギ、チュウシャクシギがたくさん休憩していた。

●香良洲海岸探鳥会

2022年5月14日(土) 9:00～11:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井光昌 今井鈴子 参加者17名(会員17名)

カルガモ、キンクロハジロ、スズガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、シロチドリ、ミヤコドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、マヒワ、ホオジロ、ドバト 計30種

30種観察できましたが、春の渡りの最盛期なのでシギ・チドリを期待しましたが、チュウシャクシギ、キアシシギ、ミヤコドリ、シロチドリとシギ・チドリは4種のみと寂しかったです。

香良洲公園の松林でここ数年、アオサギが繁殖していましたが、今年はダイサギとゴイサギが加わりました。巣の中で動くヒナも見られ賑やかでした。サギ類のコロニーとして発展していくのではと期待を持てます。

●愛知川探鳥会

2022年5月15日(日) 9:00～15:30

滋賀県東近江市甲津畑町 愛知川源流域

辻秀之 参加者11名(会員8名)

ジュウイチ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ミソサザイ、カワガラス、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、イカル 計19種

初夏の愛知川源流を訪ねる、愛知川探鳥会を2年ぶりに開催した。当日は晴天に恵まれ、11名の参加者と共に朝明大駐車場から千種街道を歩き、根の平峠を越えて愛知川源流部の大カツラの木までゆっくりと歩いて往復した。初夏らしくたくさんの夏鳥の囀りが楽しめたほか、カジカガエル、タゴガエル、モリアオガエルの鳴き声も聞かれた。また、登山道脇にはオオイワカガミ、タニウツギ、シロヤシオ、サラサドウダンの開花が見られ、愛知川源流のヤマツツジの花はとりわけ美しかった。朝明駐車場に到着する手前で、この時期には珍しくノスリが飛翔して驚かされた。

●海蔵川で鳥見 ing!(バードウォッチング)その2

2022年5月17日(火) 9:45～11:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者4名(会員4名)

カルガモ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計16種

先月に続き今年度第2回目の海蔵川でのバードウォッチングです。どんよりとした曇り空の下さっそく始めましたが、いつもなら川面にいるカイツブリの姿も見えず、やや寂しいスタートになりました。カワラヒワの囀りやスズメたちの声で賑やかではあるのですが、あまり姿が見えず、唯一カワセミがはっきり鳴き声とともに綺麗な姿を見せてくれました。耳を澄ますとウグイスの音が。田んぼからはヒバリが上空高く舞い上がっていました。また目の背の高い草の上から、胸を張ってホオジロが綺麗な声でさえずってました。いよいよ海蔵川も夏に模様替えの最中の様です。蒸し暑い季節がすぐそこまで来ています。

●木曾岬干拓地探鳥会

2022年5月22日(日) 9:00～11:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者20名(会員20名)

キジ(1)、マガモ(1)、カルガモ(9)、キジバト(4)、カワウ(30)、アオサギ(6)、ダイサギ(5)、チュウサギ(2)、コサギ(1)、ケリ(10)、コチドリ(2)、イソシギ(1)、ミサゴ(2)、トビ(1)、チュウヒ(1)、カワセミ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(2)、シジュウカラ(8)、ヒバリ(10)、ツバメ(20)、ヒヨドリ(2)、ウグイス(5)、オオムシクイ(1)、オオヨシキリ(10)、セッカ(15)、ムクドリ(11)、スズメ(50)、ハクセキレイ(2)、カワラヒワ(20)、ホオジロ(10)、ドバト(7) 計32種

長年愛知県支部のリーダー担当をされた米倉静さんが3月に急逝されました。今回は、彼の追悼探鳥会ということで愛知県支部の支部長などの参加で大人数になりました。比較的若いオスのチュウヒが現れ、ケリにモビングされました。

●青峯山探鳥会

2022年5月22日(日) 9:15～11:30

鳥羽市松尾町 青峯山

濱口雅也 濱屋勝則 参加者12名(会員12名)

ハチクマ、トビ、コゲラ、アオゲラ、サンコウチョウ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ 計16種

青峯山での探鳥会は初めての開催で、集合場所から探鳥場所へ車で移動がありましたが、皆様のご協力により事故もなく探鳥会を行うことができました。5月らしい気持ちの良い天候で、オオルリ、キビタキ、ハチクマが出てくれたり、オタマジャクシや蝶など鳥以外の生き物の観察も楽しめたと思います。

●倉骨峠探鳥会

2022年5月22日(日) 8:00～12:00

津市美杉町太郎生 倉骨峠

南 一朗 田中豊成 参加者4名(会員2名)

ツツドリ、サシバ、コゲラ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、イカル 計18種

朝から良い天気恵まれ、18種類と少なかったものの、ヒガラ、ミソサザイの成鳥・幼鳥をじっくり観察出来て満足な探鳥会となりました。(鳥合わせの時に忘れしていたオオルリと、あとから写

真で確認したコガラを追加して18種類となりました。)

●三滝川かんさつ会

2022年5月28日(土) 9:30～12:00

三重郡菰野町 三滝川河川敷

矢田栄史 鈴木健真 参加者16名(会員12名)

キジ、カルガモ、キジバト、イカルチドリ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、サメビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ 計22種

ホオジロやウグイス、ヒバリの囀りが聞かれる中でのかんさつ会となりました。川にはペアと思われる二羽のカルガモが参加者たちを楽しませてくれました。ハイライトは河川敷の柳にいたサメビタキ。繁殖は亜高山帯なので渡りの途中で通過した個体と思われます。皆さん、双眼鏡やカメラで熱心に観察や撮影をされていました。他にもこの時期らしく、ムクドリの幼鳥やハシボソガラスの幼鳥などが観察できました。

●伊勢内宮前ツバメ探鳥会

2022年6月4日(土) 8:30～10:30

伊勢市今在家町 内宮おほらい町

西村 泉 中西 章 参加者10名(会員10名)

カワウ、イカルチドリ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計17種

3年ぶりの探鳥会。おほらい町は、久しぶりに多くの人々で賑わっていました。内宮前から通りをジグザグに歩きながら、各店舗の軒先をのぞいてはツバメの子育ての様子を観察、お店の人との会話も楽しめました。まだ巣作りをしているペアもいましたが、伊勢ならではのしめ飾りの上に作った巣でじっとしている親鳥や、別の巣には巣立ち近い6羽のヒナたちがいたり、ツバメの子育てはピークを迎えているようでした。通りから五十鈴川沿いに出ると、川面でツバメが飛びながら水浴びをしていました。他にも、イソヒヨドリやカワセミなどの水辺の鳥をゆっくり観察することができました。

●木曾岬干拓地探鳥会 堤防工事のため中止

2022年6月26日(日) 9:00~11:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者3名(会員3名)

カルガモ(18)、カワウ(20)、アオサギ(5)、ダイサギ(2)、チュウサギ(6)、ケリ(15)、カワセミ(2)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(15)、ツバメ(20)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(5)、セッカ(30)、ムクドリ(10)、スズメ(45)、ハクセキレイ(1)、カワラヒワ(5)、ホオジロ(10)、ドバト(35) 計20種他にカルガモ×マガモの雑種(1)

堤防工事で長い距離を歩かなければならなくなったので、8月までは探鳥会は中止、リーダーによる鳥類確認だけになりました。

●足見川探鳥会

2022年7月3日(日) 10:00~10:30

四日市市山田町 足見川

笹間俊秋 参加者12名(会員10名)

カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、カワセミ、モズ、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、セッカ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計14種

開始前は小雨でしたが次第に雨が強くなる予報でしたので、橋のところまで定点観察へ変更しました。観察中に周辺の説明をしていると雷が鳴りだしたので、急遽30分で打ち切りにするしかありませんでした。

●木曾岬干拓地探鳥会 堤防工事のため中止

2022年7月24日(日) 9:00~11:00

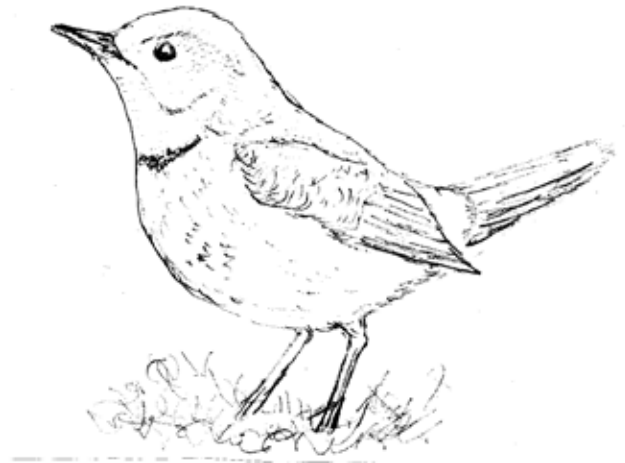
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

笹間俊秋 参加者2名(会員2名)

カルガモ(13)、キジバト(1)、カワウ(125)、アマサギ(6)、アオサギ(15)、ダイサギ(10)、チュウサギ(23)、ケリ(29)、イソシギ(1)、カワセミ(2)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(70)、ヒバリ(6)、ツバメ(600)、イワツバメ(1)、ウグイス(7)、セッカ(10)、スズメ(100)、ハクセキレイ(2)、カワラヒワ(15)、ホオジロ(5)、ドバト(5) 計22種

堤防工事で歩く距離が多くなり熱中症を予防するため中止とし、リーダーのみでまわりました。良く晴れて暑くなり、鳥もあまり多くありません。それでも干拓地や田んぼの電線には多くのツバメがいて休耕田には29羽のケリが集まっています。また、サギの集団の中にはアマサギも見られました。



コマドリ

編集後記

今年は3年ぶりに宿泊探鳥会が開催された。私も参加したが久しぶりの人や初めてお会いした人もいた。中にはLINEのフリートークでしか交流したことがなかった人もいたが、直接話してみるとSNS上とは違った印象を受ける。

やはりSNSは便利ではあるが、直接顔を見て笑顔で共通の趣味を語り合うことができるのは何者にも替えられない。会の探鳥会も中止することなく開催されてはいるが、自粛している方もいるだろう。もっと気軽に参加できる世の中に戻ってくれることを願わずにはいられない。

(T.S)

しろちどり 114号

2022年9月1日発行

題字:濱田稔

表紙絵:小坂里香

カット:中村真理子・平井正志

編集:平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市